

## 平成 25 年度（後期）海外渡航助成金報告書

名古屋大学大学院環境学研究科

博士前期課程 2 年 戸谷真亜久

日本地震学会から海外渡航助成金を頂いて、2013 年 12 月 9 日から 13 日にかけてアメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにて開催された AGU Fall Meeting 2013 に参加させて頂きました。関係者の皆様に感謝の意を示すとともに、学会参加の報告をさせていただきます。

AGU 初日は驚きの連続でした。会場である Moscone Center が近づくにつれて徐々に多くなる人の波、ポスター会場の規模の大きさ、これが AGU かと実感するとともに発表に対して気が引き締まる思いでした。

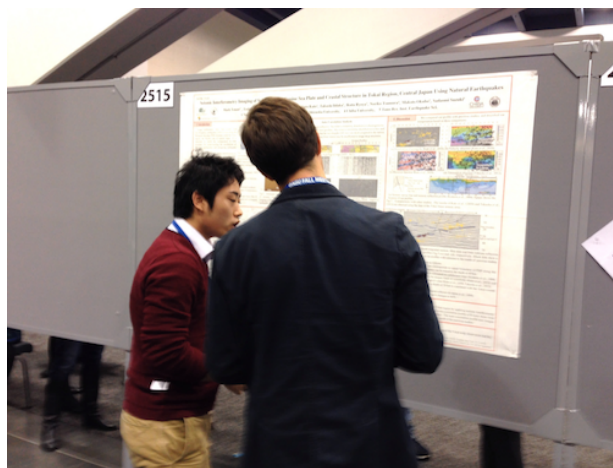
私は 4 日目の「Seismology」の「Mining signals from noise with crosscorrelation techniques」というセッションにてポスター発表を行いました。本研究は自然地震記録を用いた地震波干渉法により擬似的な発震記録を合成して沈み込むフィリピン海プレートをイメージングするというものです。同セッションは流行である ambient noise の表面波を用いた研究が多く、本研究のように自然地震の実体波を用いた研究は珍しかったため、多くの方々の興味を引くことができました。

発表を通して印象に残ったことは、研究者たちの発表を聞く姿勢です。彼らは説明を聞きに来たというよりも質問・議論をしに来たという印象でした。当然、ポスター発表とはそのような場であることは認識していましたが、国内の学会よりもその傾向

が強かったように思います。発表を繰り返す毎にそのことに気がついていき、シンプルな説明・質問に基づく詳細な解説という流れを心がけるようにしました。発表に慣れていくにつれて、相手の反応も良くなり、質問が増えることで、苦手な英語を使って対話できているということに喜びを感じるようになり、気づけばコアタイムを過ぎるまで発表をしていました。

また、発表を通して研究者が重要だと考えている処理や結果の解釈に関する助言を頂くことができました。それら見解を参考にしつつ、論文執筆に努めていきたいと考えております。

最後になりましたが、日本地震学会の海外渡航旅費助成金によって、海外での学会発表という貴重な体験をすることができました。このような機会を与えて下さった日本地震学会及び関係者の皆様に深く御礼申し上げます。



写真：ポスター発表の様子